

蒲御輿料木自梅畑供御人納今出川家即遣衛士衛士作之と紀事次見えたり古製は山岡俊明説に、菖蒲のこしは五月端午禁裏の宮殿へふき又薬玉などの料にあやめを持まゐる時車に積て来るそれを輿とはいふなりといへるぞ穩に聞え侍るさすれば別段ことやうにつくりなしたるものにはあるべからざるにや玄かはあれどふるき圖式なければ其製作玄るべからず雲圖抄にあやめのこしすゑし場所の圖を載たれど輿の圖は見え侍らず近代のものは藤井家調進のよし傳ふる圖ありこれ和土記故實拾要などにいふ所の説に粗あへりこれをあやめの御殿ともいへりそのさまは二本柱にして屋根あり小殿の形ちを作りなせるものなりやねの四すみ棟等の六所には蓬あやめをさすよしなりさて和土記文龜三年五月五日の條にあやめの輿をつくれる木材を八瀬より調進する事見えたり其調の材をもてつくれるあやめのこしならば藤井家調進の二本柱につくれる輿の説にあへり文龜三年より今茲天保辛丑迄三百四十二年に及べりまたはるかに後れて延寶の頃はあやめの根を以て棟梁となすと紀事記したれば藤井家調進のものとは異なる様に推はからるなりさて小殿の形をなせるものは應永の頃よりありしとみて其體如屋形之飾菖蒲是菖蒲輿也と記薩戒みゆれど古代の輿の形詳に玄れがたし猶考べし

〔延喜式三十七〕典樂凡五月五日進昌蒲生蔣察充之黑木案四脚人給並寮儲之苧六兩黑葛四斤申省輔已下寮頭已下共執入進訖卽退出輔留奏之省見中宮東宮黑木案各二脚一腳人給

〔世諺問答〕五月問て云五月五日に玄やうぶをもちゆるいはれは何のゆへにて侍るぞや答昆明百節の玄やうぶとて一寸がうちに百ふしのある玄やうぶありあの玄やうぶの根萬病をいやすといへりされば百ふしなけれどもこれをいはひ侍るなり酒中に入あるひは帶にしあるひは沐浴に入侍る事は本草また大戴禮月令などいふ書に侍るとなり